



地区補助金事業報告



◆プロジェクト名 (プロジェクト番号 04)

広島市社会福祉法人福祉広医会 特別養護老人ホーム悠悠タウン江波にスタンディングリフトを寄贈する

<贈呈式>

日時 2015年11月4日(水) 15:15~16:40

場所 特別養護老人ホーム悠悠タウン江波 1Fホール
(広島市中区江波西2丁目14番8号)

◆プロジェクトの概要

本施設は、広島市内中心部から交通の便の良いところに位置する都市型高齢者福祉施設として、高齢者 100 人が入所している施設である。入所者のほとんどが生活全般に介助を必要としており、ベッドから車いす、車いすからトイレ等へ移乗するときは、介護職員 1 名ないし 2 名が入所者を抱えて行っているが、入所者が移乗介助を依頼するのを遠慮している様子が時折うかがわれる。そのため、本施設にスタンディングリフトを寄贈することにより、この器具を使用してこれまで 2 名で行っていたトイレ介助を 1 名で行うことができ、その結果職員はゆったりと安全にケアを行うことができる。人の力で抱えるより姿勢の崩れが少なく、自力で立つことができない入所者も立位がとれるため負担が軽く、生活の範囲が広がり意欲が向上する。このことにより高齢者の生きる喜びにつながる事が期待できる。また、介護職員の身体的・精神的負担が軽減され労働意欲が増すことにより、介護職の人材確保へもつながることが期待される。このプロジェクトの実施により、クラブ会員が地域福祉の現状について更に理解を深める良い機会となる。

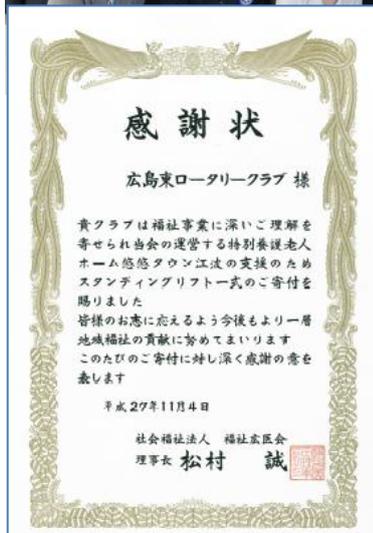
◆実施報告

スタンディングリフトの贈呈式は、当クラブから原田会長、河野国際奉仕部門理事をはじめとする 10 名の会員が出席し、悠悠タウン江波からは松村理事長や村上施設長が出席されて悠悠タウン 1 階ロビーで行われました。多くのスタッフが見守る中、贈呈式は厳粛に執り行われ、まず、原田会長から松村理事長に対し目録の贈呈が行われました。続いて原田会長、河野国際奉仕部門理事からの挨拶が行われた後、松村理事長から原田会長に感謝状が手渡され、本贈呈に対する心からの謝辞が述べられた。式典の傍らには寄贈されたスタンディングリフトが置かれ、中国新聞や広島テレビの各報道局が取材を行い、RCCからはラジオカーが持ち込まれて、贈呈式の様子がロータリー財団林恵介委員長を通して、15 時 30 分から数分間、ラジオを通して広く聴取者の皆さんに紹介、また、広島 TV の夕方の情報番組でもこの模様が放映紹介された。

更に、11月18日(水)のクラブ例会において、寄贈先の悠悠タウンから渡辺施設長・米田生活補助員をお招きし、今回のスタンディングリフト寄贈の意義や施設での使用状況について丁寧にお話を頂いた。PC 画像を使用している具体的なお話に会員は深く頷き、今回の寄贈が施設の介護環境の向上と入居者の生活環境の向上に大きな役割を果たしたことを会員一同で共有し、皆で喜びあった。



贈呈式 2015年11月4日(水)



経済レポート

経済レポートに掲載 2015年11月10日号

広島東ロータリークラブ
スタンディングリフト寄贈
広島東ロータリークラブ
(原田理事長)は、四日、
特別養護老人ホーム「悠悠
悠タウン江波」(中区江波
西二丁目)で、松村理事長
に、スタンディングリフト
を寄贈した。
地区補助金プロジェクト
の一環であり毎年、地
域貢献に対する活動を行
っている。スタンディン
グリフトは、移動・移乗
の際に入居者および介護
者双方の負担軽減が図ら
れ、施設全体のサービス
の向上や事故防止にも繋
がり、入居者の安全・安
心な生活を実現させる一
助になるとしている。

中国新聞セレクトに掲載 2015年11月6日(金)

中国新聞 SELECT

高齢者介護
思いを贈る
広島

RCが移動補助リフト

広島東ロータリークラブ(広島市中区)は4日、介護が必要な人の移動を補助するリフト1台を中区の特別養護老人ホーム悠悠タウン江波に寄贈した。リフトは、車いすの利用者がベッドやトイレへ移動するのを補助する器具で、介護者の負担軽減も期待できる。同ホームで贈呈式があり、同クラブの原田理事長(73)が松村理事長(66)に目録を手渡した。原田会長は「入居者が快適に生活を送ってほしい」と話し、松村理事長は「介護者の負担が減ると、入居者も速癒せざるに介護を頼める。大変ありがたい」と感謝していた。(中間卓也)

リフトの前で原田会長から目録を受け取った松村理事長

